

ワールドカフェ活動報告

1 ワールドカフェの概要

「まちづくり短歌」づくりを通じて次期総合計画への施策提案を行うワールドカフェ方式のワークショップを平成28年12月1日と平成29年2月22日に開催しました。

総合計画策定審議会委員に役場若手職員を加えたメンバーが5班に分かれ、「まちづくり短歌」にまちづくりへの熱い想いを込めました。



2 できあがった歌の数々

第1回ワールドカフェ

うまいもん
雄武に沢山
あるけれど
食べれる場所は
答えられず

地産地消の飲食店の脆弱さを地産地消イベント「うまいものまつり」を隠喩して表現。

広大な
土地活用の
まちづくり
産業おこし
明るい未来

広大な町土の有効活用こそがこの町の基本であることを改めて町民に提起する歌。

うみきれい
ちようきれい
むろんだよ
うみといえは
おうむちよう

「海の魅力で直球勝負」した歌。節の頭を雄武町と横読みさせる技巧的な歌でもある。

はまなすの
咲く町おうむ
かがやくよ
日の出と子ども
未来につなぐ

町花はまなすと、日の出、子どもを採り上げ、明るい未来への希望を表現した歌。

鮭のよう
戻りたく
なる
街作り

一度転出しても、セターンを希求する人が増えるまちづくりへの意志を表現した歌。

うまいもの
たくさんあるぞ
あちこちに
いかしていこう
勿体ない

雄武産農水産物がまちづくりに十分生かされていないと問題提起する歌。

さけサーモン
ほたて
サンジャック
外国人にも
おいしい
雄武の自慢

雄武産海産物の輸出拡大と外国人観光客の雄武産料理の飲食機会拡大をめざす歌。

サンジャック
雄武民だけ
知っている
お味はいかが？
ジエントルマン

極上の雄武産ほたてで欧州の食通たちをうならせたいというメッセージ。

道の駅
もっと
にぎわい
あればいい！

道の駅おうむに対する町民の想いをストレートに表現した歌。

ホタテ貝
おフランスでは
サンジャック
どんと来い来い
外国人よ！

ほたてがイエスの使徒ヤコブの象徴である故事を外国人観光客に生かそうと提起する歌。

日の出岬で
温泉入って
サンジャック

雄武観光の勝負どころを短く明快に表現し、キャッチコピーとしても秀逸な歌。

雄武人
熱い思いを
持ち続け
自身を持とう
サンジャックに

地味な印象があるほたてをこれからのまちづくりの主力にしていこうと主張する歌。

雄宝と
毛ガニホタテに
アンガス牛
どれも美味しい
名物です

従来の3大名物にアンガス牛を加えた今の雄武産業の方向を改めて定義した歌。

露天風呂
日の出見ながら
見る海に
コンブ漁師の
光る汗かな

大海原のマクロと朝陽で汗が光るミクロを対比させ、雄武の自然と産業をファンタジックに表現した歌。

サンジャック
日の出岬は
サンライズ
町民あげて
売りこもう！

ほたてがイエスの使徒ヤコブの象徴である故事を欧州輸出に生かそうと提起する歌。

スポーツセンの
施設の整備を
願いつつ
雄武の元氣
この場所から

市民の健康づくりに重要なスポーツセンターの施設整備への想いを歌ったもの。

雄宝に
アキアジ
・メジカ
同じ意味
一つの言葉も
見方次第

サケの様々な名前をとりあげること、サケとこの町との深いつきあいを表現した歌。

温泉は
日の出岬が
一番だ
ほかの町には
負けないぞ！

温泉をまちづくりの売りにしていこうという強いメッセージをこめた歌。

昔から
人情あふれる街
自然の
恵みに感謝
食べ物うまい

人情深く、自然に感謝しながら暮らしている住民の気持ちをストレートに表現した歌。

夜明け前
暗闇照らす
ラ・ルーナが
毛蟹漁船の
道筋示す

夜のラ・ルーナ、夜の毛蟹漁といった人々に知られていない雄武のもう一つの姿を題材に自然と産業を表現した歌。

住みやすい
さいはてなれど
いいところ
雄武の町は
ゴジラのあたま

ゴジラの姿に似た網走総合振興局境界の最北という「最果て」でありながら住みよい町であることを表現した歌。

ゴジラの
頭の中身は
ぎっしり
詰まった
大自然

「最果て」ゆえの大自然を歌った一首。「ぎっしり詰まる」はカニの身を連想させる。

ゴジラの頭
中に詰まった
大自然
海・山・川・原
サンジャック

「最果て」ゆえの大自然を歌った一首。ほたてで産業とのつながりも表現している。

雄武町
離れてわかる
あたたかさ
戻ると美味しい
サンジャック

町外居住経験者が、人情と食を例に、ふるさとの魅力を表現した歌。

産めよ
増やせよ
戦時中
産みたい産もう
これからは

子どもが産みたくなるまちづくりが重要というメッセージをこめた歌。

澄んだ空
海からのぼる
初日の出
年のはじめは
北国雄武

日の出岬から初日の出が見れる雄武のぜいたくを人々に味わってほしいと提起する歌。

鮭ホタテ
マガニ
マス
イカ
どれもうまいぞ
雄武町

3大名物を筆頭に語呂よく魚を7種採り上げ、漁業の豊かさを表現した歌。

初夏思う
カッコウ鳴く声
出々に
未来に残せよ
永遠に

幼少の頃に五感で感じた大自然を未来に継承していきたいという想いを表現した歌

第2回ワールドカフェ

学
び舎で
見つめし成長
子どもらの
伸びゆく速さに
喜びあふれ

学校で生徒とともに過ごし、
ともに成長したことを実感
し、喜び歌。

一しこが手で
こつちが足です
たんたん
と
語る医師
ふるえる我が手

医療の現場での、信頼と不安
が同居する複雑な気持ちを表
現した歌。

単
身で
雄武の生活
一年目
カニホタテサケ
海の好きだ

単身での社会人生活の不安を
雄武の地域資源がやわらげて
くれる様を表現した歌。

強
い風
雄武の歓迎
うれしいな
パラポラアンテナ
どこへ行ったか

逆風にも順風にもなる「風」。
雄武での新生活の「順風」を
願う歌。

明
け方に
空に飛ぶ鳥
カモメかな
黒くてうるさい
カラスです

カラスを通して、美しいだけ
でなく地に足のついた現実の
生活が実際にはあることを主
張する歌。

海
と山
交わる道を
散歩して
ふと見上げれば
七色の橋

大海原から大地にかけ、大き
く虹がかかる雄武の大自然を
たたえる歌。

「牛」臭い
農家で発した
一言に
本気で怒った
父の顔

生活の糧である牛を臭いと侮
蔑した息子をただす父の親心
を表現した歌。

我
が息子
大勢の中を
立ち去りて
この町雄武に
夢を求めて

都会でなく雄武で暮らしてい
くことを選択した息子にエー
ルを送る歌。

結
婚し
家庭を守り
仕事場に
道を守る
人に成る

結婚と今の仕事での社会貢献
という2つの人生の目標を誓
う歌。

地
産地消
声高らかに
言つけれど
雄武の人は
他産地消

他産地消の現状を憂い、地産
地消をめざしていこうと呼び
かける歌。

肌
寒い
緑したたる
五月晴れ
縁を結びし
あの日を想ふ

雄武の「リラ冷え」の頃の情
景を自身の出会いの経験に重
ね表現する歌。

子
づくり
人づくり
街づくり
生きがいのある
幸せづくり

雄武にとっても、住民にとっ
ても、子づくり、人づくり、
街づくりが大切だと訴える
歌。

空
き時間
ひとり夢中
けん玉し
誰も興味を
もってくれない

地味だけど奥が深いけん玉を
通して雄武で交流を深めたい
という願いをこめた歌。

山
の中
学校帰りに
木に登り
たくさん食べた
山びどう

自然と共生して暮らした子ど
も時代を懐かしみ、現代の子
どもたちの自然体験の重要性
を訴える歌。

子
どもたち
皆元気に
成長し
気つけば私
も
ともに成長

子育てを無我夢中で行い、自
分自身が成長できたことを喜
ぶ歌。

未来を夢見る
子どもたちへ
雄武の産業
引き継げ未来へ
十年後

地域の産業がこれからの子どもたちにとっても大事だと改めて訴えかける歌。

仕事帰りの
毎日行きたい
スナックに
だけどお金が
足りないよ

スナックで一杯という港町雄武の夜の楽しみを実感をもとで紹介する歌。

オホーツク
サイクリング
天気が心配
晴れてくれ
ゴールでビール
が待っている

至福の達成感を味わえるオホーツクサイクリングの楽しみを実感をもとで紹介する歌。

毎日の仕事で
出会うお客様
一所懸命
頑張れば
言われる言葉
「ありがと」

仕事にひたむきに取り組むことを賛美し、そうありたいと思う気持ちを表現した歌。

大沼の
スノーアタック
三連覇
成し遂げたい夢
目指す頂

日々鍛錬しながらレースに挑戦し続ける自分自身の意気込みを表現した歌。

コントかな
妻と過ごす日々
今後元気で
笑おうね

夫婦生活を題材に、雄武での充実した生活を表現し、それが続くことへの願望を込めた歌。

サイクリング
お尻は痛く
遠いけど
各地の町で
おなかいっぱい

オホーツクサイクリングの魅力を一人的経験者として世にシンプルで紹介する歌。

人生は
マラソンの
ように
果てしない
だけどゴールは
やってくる

家康の「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし」の現代版として示唆に富む歌。

十年後
結婚してるの
わたくしは
さみしい夜か
しあわせか

十年以内には結婚したいという願いを込めた歌。個人の課題だが結婚奨励は町の課題でもある。

いつの日も
活躍できる
あの日まで
痩せたいけれど
グルメの誘惑

ダイエットをテーマにしつつ、食の豊かさや人材の活躍といったまちづくりの共通テーマにも言及した歌。

思い出す
出道抜けて
目前に
広がる緑と
鮮やかな青

道道下川雄武線を走り北幌内に着いて海が見えた時の感動を表現した歌。

雄武来て
初めて食べた
アンガス牛
広がる旨味
広がれ世界へ

雄武産アンガス牛をたたえ、それが内外で知られるようになることを願う歌。

この先も
年を考いても
心には
移住し良かった
「第二の故郷」

雄武に移住して良かったという気持ちを「第二の故郷」という麗句で表現した歌。

ツールドフランス
見ていたら
どこかで見た
よな映像が
雄武の景色と
おなじだ

雄武とフランスの野山の美しい景色が似ていることを通じて雄武の美しさを表現する歌。

オホーツクの
豊かさぎゅっ
と凍らせて
雄武の浜は
流水原に

流水に関じ込められたブランクトンが豊かな水産資源を生むことをわかりやすく表現した歌。

とりあえず
雄武で頑張る
ことにした
結果はどうあれ
やるだけやるさ

雄武での社会人生活に対する「覚悟」を表現した歌。「とりあえず」が現代的。

ダイエット
すっきりスリムで
病気知らず
のんびりのびのび
健康な日々

ダイエットをテーマにした「のんびりのびのび」と心の健康づくりの重要性を訴えた歌。

母をみて
「苦労するか」
と思ひ決め
仲良く3人
のびのび育て

たとえ苦労しても3人子どもを産み、育てていくぞという「覚悟と決意」を表現した歌。

疲れたなあ
坂道多い
学校まで
歩く児童が
見あたらない

車での送迎が当たり前になっている今日の通学風景を描写した歌。徒歩通学のメリットを訴えている。

美深線
鹿が飛び出し
危ないぞ
たまにはうさぎも
いいかもね

道道美深雄武線でのドライブの日常を歌ったもの。「うさぎ」は非日常へのあこがれとして表現している。

海産物
幼い頃から
食べている
テパート産は
食べられない

雄武の海産物の豊かさを表現した歌。テパートは本来、郷かな食材の宝庫だが、それにも負けない品質を主張。

無くなつて
初めて思う
我が母校
さみしいのやら
かなしいのやら

母校の廃校を嘆く歌。「のやら」を重ね、さみしさ、かなしさを強調している。

残業後
疲れを癒す
ご褒美は
雄武の幸で
飲む一杯

雄武の幸は、酒の肴に最適。「自分へのご褒美」の時は輪をかけて旨い。それらを秀逸に表現している。

ポスターの
春の毛ガニの
写真見て
今は食べられぬと
毛ガニを想う

毛ガニの産地である誇りと、高値安定で普段の食卓にあがらないことへの憂いを表現した歌。

3 総括と今後の展開

2回のワールドカフェを通じて、雄武の雄大な自然とその恵みを得た産業をテーマとした歌、日々の生活の喜怒哀楽の感情や、家族や友人、恋人への想い、将来の自分の夢などを歌った歌など、67首の雄武町、雄武町民に関する短歌が誕生しました。

いずれも、雄武町の特性や課題をよくとらえ、未来にむけて、夢を語り、改革を志向するものばかりです。

第6期総合計画の策定にむけては、多くの町民に郵送・選択肢形式でご意見をうかがう「アンケート調査」なども行っていますが、「まちづくり短歌」という表現形態を通じて、今後10年のまちづくりの課題や方向が改めて再認識されました。

平成29年度は、審議会ではこれらの「まちづくり短歌」の内容を深く掘り下げて意見交換を行い、町民目線、町民視点での計画づくりに取り組んでいくことが期待されます。